

構想の背景と目標、計画の概要:

資源・地質工学グローバル人材育成協働教育プログラムで育成する人材像と取組み

“将来、資源枯渇・環境問題に立ち向かう人材が不足すると日本の発展は望めない” “ASEANは重要なパートナー”

経済・社会の基盤となる
地下資源の安定供給

安全・安心な社会のための
地質災害対策、環境保全・修復

持続的な経済・社会の発展

ASEAN諸国との協調と共存共栄

人材像

- ・チャレンジ精神旺盛な行動力
- ・高度な専門知識と深い洞察力
- ・実践的なコミュニケーション能力
- ・異文化の相互理解

20～30年後の日本を支える
資源・地質工学グローバル人材



九州大学工学部・工学府

連携

早稲田大学
ASEAN主要7大学
AUN/SEED-Netプロジェクト

OUTPUT
・資源・環境政策担当者
・資源・環境シンクタンク
・総合商社(資源など)
・資源・環境系企業
・資源・環境系研究機関等

これまでの実績(過去30年間)

国際的な資源人材育成

JICA研修コース

- ・国際地熱研修コース(36カ国 400名)
- ・石炭資源開発・利用研修コース(17カ国 89名)
- ・再生エネルギーコース(1カ国 9名)

その他の研修コース

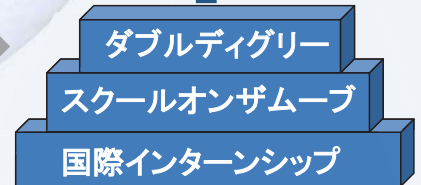
- ・NEDO 産炭国石炭産業高度化事業(2カ国 250名)等

現在継続中

- ・AUN/SEED-Netを通じたASEAN主要大学教育研究支援(2003～)
- ・海外インターンシップ(14カ国 150名, 1987年～)
- ・国際環境システム工学特別コース(博士課程 120名, 2002年～)
- ・SSSVプログラム(20名, 2011年～)
- ・東アジア環境ストラテジスト教育プログラム(30名, 2009年～)
- ・ITP, G30, G-COEなどのプログラムと連携等

未来

グローバル企業で活躍する
職場リーダー
大学・研究機関で活躍する
研究リーダー



※積上式の協働教育とフィールドを
教育現場とした実践教育

“全て英語による講義・演習の実践”

資源・地質工学グローバル人材育成協働教育プログラムの基本的考え方

<国際インターンシップ>

- ◆ 輪番制によるサマースクールの実施(1週間)
- ◆ 日本人学生:海外における資源・エネルギー開発に関するプロジェクト・ベース学習(PBL)およびOn the Job Training(OJT)
- ◆ ASEAN学生:日本国内における課題解決型セミナー、フィールドワーク、高度分析機器等を利用したPBLの実施

<スクールオンザムーブ>

- ◆ 資源開発・地質探査・地熱・環境グループが日本ならびにASEAN関係大学に連続して移動(約1ヶ月)、座学ならびにPBL, OJTによる単位修得
- ◆ 海外資源開発現場におけるインターンシップ・ワークショップを通じた国際力の涵養

<ダブルディグリー>

- ◆ 資源・地質工学の上流部分における系統的教育および産業界との連携
- ◆ ASEAN主要大学との協働教育によるグローバルな高度人材育成

	九州大学	チュラロンコン大学	バンドン工科大学
標準修了年限	2年	2年	2年
修了要件 単位数	30単位以上	36単位以上	50単位以上
互換可能 単位数	最大10単位	最大9単位	規定なし
1単位講義 時間数	15時間	15時間	6時間
修士論文 提出・発表	必修	必修	必修
集中講義	有	有	有
インターンシップ 科目	有	有	有

大学の国際化

